

2月の米CPIは市場予想を下回り米国株は上昇



チーフ・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 2月の米CPIは市場予想を下回る

米労働省が12日に発表した2月の米CPIは、変動の大きい食品とエネルギーを除くコア指数が前月比0.2%の上昇と、市場予想（同0.3%の上昇）を下回り、総合CPIも同0.2%の上昇と1月の同0.5%の上昇から伸びが大きく減速しました。前年同月比ベースでは、コアCPIが3.1%の上昇と、21年4月以来の水準にまで伸びが鈍化する結果となったほか、総合CPIも同様に上昇一服の動きとなっており、過去数ヶ月にわたり停滞していた米インフレ抑制に進展が見られてきました（右上図）。

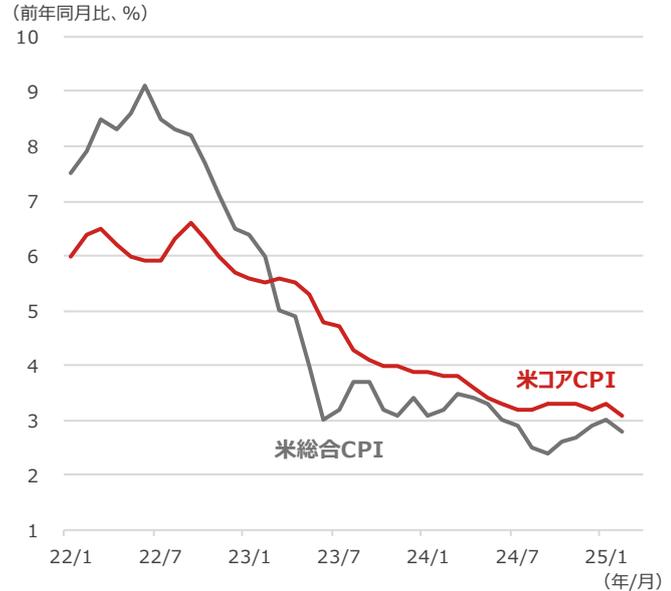
市場の一部では、米CPIの内容が米関税政策の影響で上振れすると懸念もありましたが、結果的には予想を下回る内容となったことで市場に一旦安心感が広がり、足元で調整基調にあったS&P500種株価指数は12日に上昇しました。

ポイント② 次の焦点は2月の米小売売上高に

一方、12日の米国債市場では2年国債や10年国債の利回りが上昇（価格は下落）し、FF（フェデラル・ファンド）金利先物市場では年内の米利下げ幅予想が縮小するなど、市場はトランプ氏の関税政策が今後米国のインフレに及ぼす影響を警戒しているようです。

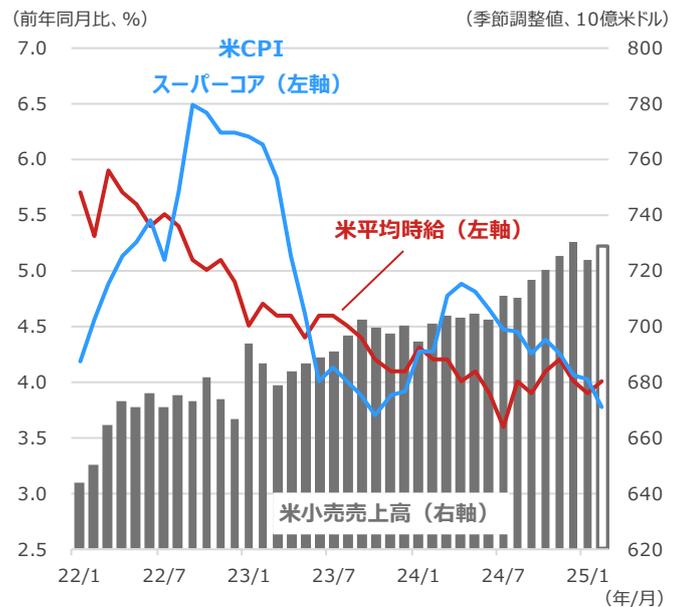
もっとも、米国を取り巻く投資環境は現時点で良好さを維持していると考えられます。米国のマクロ環境を整理すると、粘着性の強いサービス価格を中心にインフレが緩やかに鈍化し、賃金インフレ圧力が緩和されてきた一方、米経済の約7割を占める米個人消費は堅調さを維持しています（右下図）。17日に発表予定の2月の米小売売上高が市場予想通り堅調な内容となれば、米経済や米国株を見直すきっかけになりそうです。

米総合CPI（消費者物価指数）とコアCPIの伸び率



期間：2022年1月～2025年2月、月次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米CPIスーパーコア・米平均時給・米小売売上高



期間：2022年1月～2025年2月、月次
・米CPIスーパーコアはBloombergが算出する住宅とエネルギーを除いたサービス価格指数
・2025年2月の米小売売上高は2025年3月12日時点のBloomberg予想（前月比0.7%増）を基に試算
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全体の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。

野村アセットマネジメントからのお知らせ

■ ご注意

下記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、野村アセットマネジメントが運用するすべての公募投資信託のうち、投資家の皆様にご負担いただく、それぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をご覧ください。

■ 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価格が変動します。したがって投資家の皆様のご投資された金額を下回り損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■ 投資信託に係る費用について

以下の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

2025年3月現在

ご購入時手数料 《上限3.85%（税込み）》	投資家が投資信託のご購入のお申込みをする際に負担する費用です。販売会社が販売に係る費用として受け取ります。手数料率等については、投資信託の販売会社に確認する必要があります。 投資信託によっては、換金時（および償還時）に「ご換金時手数料」等がかかる場合もあります。
運用管理費用（信託報酬） 《上限2.222%（税込み）》	投資家はその投資信託を保有する期間に応じてかかる費用です。委託会社は運用に対する報酬として、受託会社は信託財産の保管・管理の費用として、販売会社は収益分配金や償還金の取扱事務費用や運用報告書の発送費用等として、それぞれ按分して受け取ります。 * 一部のファンドについては、運用実績に応じて報酬が別途かかる場合があります。 * ファンド・オブ・ファンズの場合は、一部を除き、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬等が別途かかります。
信託財産留保額 《上限0.5%》	投資家が投資信託をご換金する際等に負担します。投資家の換金等によって信託財産内で発生するコストをその投資家自身が負担する趣旨で設けられています。
その他の費用	上記の他に、「組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料」、「ファンドに関する租税」、「監査費用」、「外国での資産の保管等に要する諸費用」等、保有する期間等に応じてご負担いただく費用があります。運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。